日本女子大学日本文学科蔵『狐の草子』

――翻刻編――

石井　倫子・伊達　舞・渡邊　咲子・吉田　怜世
大塚　千聖・武居　真穂・藤田百合子・三上　真由

はじめに

本稿は、二〇〇九年に山口正彦氏より日本女子大学日本文学科にご寄贈賜った『狐の草子』（以下、「女子大本」）の翻刻・図版および諸本との校異を報告するものである。語釈・通釈に関しては「日本女子大学日本文学科蔵『狐の草子』―注釈編―」（『日本女子大学文学部紀要』六七号）を参照されたい。

一　書誌事項

絵巻、一巻。紙高二九糎×全長八九六・五糎。江戸時代末期以降写か。表紙は縹色を基調に桃色や山吹色で中津木瓜風の文様が織りなされた布製であり、幅二四・二糎、無辺題箋が貼付され「きつねの双紙」と外題が墨書されている。軸は丸形・金属製。料紙には楮紙が使用され、下記法量表の通り二十五紙が継がれている。詞書の字高が概ね二三糎あるのに対して絵はやや低く、平均して一七糎程度である。その他奥書、識語、印記等は見られない。

【法量表】

料紙	料紙幅(cm)	詞書・絵
1	8.9	遊紙
2	43.2	第一図
3	44.5	
4	44.6	第二図
5	44.0	
6	43.7	
7	43.7	第三段詞書
8	25.4	
9	44.7	第三図
10	41.6	
11	26.2	
12	44.7	第四段詞書
13	44.5	第四図
14	44.3	

料紙	料紙幅(cm)	詞書・絵
15	32.5	第五段詞書
16	44.6	第五図
17	44.3	第六段詞書（前半）
18	30.8	
19	43.7	第六図（前半）
20	44.5	
21	18.3	第六段詞書（後半）
22	43.9	第六図（後半）
23	23.4	第七段詞書
24	44.3	第七図
25	19.3	巻軸紙

二　翻刻（詞書）

〔凡例〕

一、改行は散らし書き等含めすべて底本に倣った。

一、底本に「内ニ」「内へ」「四方へ」のようにある箇所は、そのまま割り注相行体で示した。

一、「乃」「之」はすべて平仮名「の」に開いた。

一、踊り字は、漢字は「々」、仮名一字は「ゝ」、仮名二字は「〳〵」を用い区別した。

一、第一段・第二段の詞書は欠損しているため、第三段から掲げた。

第一段・第二段　※詞書欠損

〈第一図〉〈第二図〉

第三段

今わ十ちやうはかりも行ぬらむとおもふ
内ニうすひわた成むねかとをならへたる
やかたの内へさし入たり比は秋のなかは
なれは庭には何となき草花さき
みたれ風になひくそらたきの匂ひさも
けたかくいとゝ心もいさきよしくるま
さし入れは女郎花のすゝしのはかまき
たるにうほうみち〳〵て萬心有様也
一ま成所に琴ひわ立テきちやうには
あらて引物したる内ニ有ける人をみれ
はそのさまあてやかにやうきひりふしん
のよそほひもこれには過しとそ覚ゆ
そうつのそはに居たりいかに成事そと
あまりの事にむねうちさわきわな
〳〵とふるわれたりいふ事の葉も
ゆかしきさまなりこはいかに是程の人
なき心ちせられてとかくためらい
しはし物語なと
して居たるも
心もとなくとくねはやと
おもひ恥かしなから
取あへす
我為に有ける物をよし野山
人にしられぬ花の住家は
と音信けれはなにとなきやうにて
枝ならぬ身なれは風もしらぬにや
華の住家と君はいへとも
とゑいしけれはそうついよ〳〵かんニ
たへ夜ふくるもしらてあそひ居漸々
明かたにまとろみてけり

〈第三図〉

第四段

扨そうつは日たくるほとにをきぬれは御
手水たてまつり暫供御をそまいらせ
けるうを色々と、のへすゑけれはそうつ
見てかゝるほうしの身なれはうを鳥くふ
事夢〳〵なしとゆひけれは程なく
しやうちん之物をした、めてまいらせたり
みやつかゐの人〳〵何れも目やすきさま
なりそうつおもひけるはかやうにきら
〳〵敷人にもめなれす空はつかしく
食事もしか〳〵くわすあしもともたと
〳〵しくなましいに身をつく
ろいぬれは夜もうちとけてねられす
目なれぬ事共おほくいと、心もはつかしや
さむらいのかたを見れはおとこ共七八人女
ほうともあまた有酒のみうたひあそひ
物品々まことにしる所あまたあるに
こそ誠にともしからて
かくしつし
とし月
をそ
をくりける

〈第四図〉

第五段

か、りける所にそうつをもふ事なく女
ほうとたわむれあそひ居たる處に
門のあたりに人音あまた聞ゆるみや
りけれはわかきそうのしやくちやうを持
たるか二三人はしり入たりこれをみ
そは成女ほうをはしめて数おほく有
つる物ともこれは〳〵と斗にて我さき
にとにけはしるそうつはきもを
けしにくる人々を見れは老たるも
わかきも幾とし月のころをへたるけも
なききつねに成て皆四方へにけ影
もかたちもなかりけり

〈第五図〉

第六段

扨そうつはほうせんとしてひとりそ
居にけるこはゆめかうつゝか扨も我身は
ねたるやねすやなと、思ひいへの内を見
まわせはこんかうしやう院の大ゆかの下也
みすやた、みとおもひしはむしろこ
も切なりひわ琴とみへしは馬うし
のほねはんさうたらい色々のやくと
みへつるはくちたるつほのわれさらの

かけされかうへなりそうつきわ
めてをくひやう成物にてこはいかなる
事そと手あしもはたらかす身も
すくみてあきれはて、そ居たりける
色々うつくしき物きたるとおもひしは
ほうく古きそうしのはし取あつめた
るにそありける扨しも有へき事
ならねはたかはいにはい出漸として
みなみの大もんへ 出けりこわらんへ共
これをみて手をたゝきあしをそら〻
してはらひの、しる事かきり
なしかゝる所にこんゑ殿ノさむらい
初参しけるかこんかうしやう院にわらんへ
ともあつまり物わらいしけるを何事
そとおもひて立寄みれはとし比あいし
れるそうつの御坊なりすかた目もあて
られすこはいか成事そとといけれは
もふ〳〵としてゆいわくる事なしあさ
ましきすかたをみかね我きたるひたゝ
れの上をぬきてきせ紙きれはぬかせ行
すきぬそうつはこきやう〻帰るに此そうつ
きわめてせいたかかりけるにひたゝれの上
斗きけれはわきたかく
おかしき事
かきりなし

〈第六図〈前半〉〉

そうつはあまたのわらへともにはやし
たてられなを〳〵心もとぼ〳〵とふむ
あしもともみへわかす爰かしこ〻行かゝ
りけれはわらへはなをもよろこひ手
ひやうしうちてはやしてけり漸
としてこきやうの近所〻ゆき付けり

〈第六図〈後半〉〉

第七段

扨こきやうへ行けれは娘みつけて
うれしなからそうつのすかたをみる〻
あさましさかきりなし其まゝわか
きたりける小袖をぬきてきせにけり
事の有様をとへはしか〳〵のよし物
かたりそしけるむかしも今も
地さうの御ほんせい有難こそ覚
ける七年の内のたのしみは
七日かうちにそ
ありける

〈第七図〉

三　校異

〔凡例〕

一、次の諸本を対校本とし、底本との校異を示した。

早　早稲田大学図書館蔵『狐草紙』（早稲田大学図書館古典籍総合データベース）

国　国立国会図書館蔵『きつねの草子』（国立国会図書館デジタルコレクション）

石　石川透蔵『狐の草子』（室町物語影印叢刊52）

大　大東急記念文庫蔵『狐の草紙』（『室町時代物語大成』第四）

個　個人蔵『狐草紙絵巻』（宮次男「足利義尚所持狐草紙絵巻をめぐって」『美術研究』二六〇号、一九六八年）

一、漢字仮名の異同及び仮名遣いの異同は掲出しない。

一、○内の数字は、その段における行番号を示す。

一、詞書が欠損している第一段（現存諸本すべて欠損）、第二段（底本のみ欠損）に関しては、これを掲出しない。

第三段

②内―ナシ（早・国・石・大・個）

②をならへたるやかた―ナシ（早・国・石・大・個）

③さし入たり―いれたり（早・国・石・大・個）

③比は―庭には（早・国・石・大・個）

④庭には―ナシ（早・国・石・大・個）

⑤風になひくそらたきの匂ひさもけたかくいと、心もいさきよし―ナシ（早・国・石・大・個）

⑥さし入れは―さしよせたれは（早・国・石・大・個）

⑦す、し―すかし（国・石）

⑧にうほう―女はうのおとなしやかなるかいて、うちへみちひくそらたき（早・国・石・大・個）

⑩有ける人―すこしゐはつれたる人（早・国・石・大・個）

⑪そのさまあてやかに―ナシ（早・国・石・大・個）

⑫覚ゆ―見えたる（早・国・石・大・個）

⑬そうつの―そうつさしよりて（早・国・石・大・個）

⑬成事―ある事（早・国・石・大・個）

⑮いふ事の葉も―あり香なつかしくまゆのあたりくちつきあひ〳〵としていふことの葉いとすくなく（早・国・石・大・個）

⑯是程の人なき心ち―これほとの人にちかつくくわほうありつらんことよとおほえすなく心ち（早・国・石・大・個）

⑳心もとなく―こゝろもとなくて（早・国・石・大・個）

⑳とく―はやくとくうちそひて（早）、はやとくうちそひて（国・石・大・個）

㉑おもひ恥かしなから取あへす―おもひて（早・国・石・大・個）

㉕音信けれは―いひけれは（早・国・石・大・個）

㉘ゑいしけれは―いへは（早・国・石・大・個）

㉘いよ〳〵―ナシ（早・国・石・大・個）

㉘かんこたへ―かんにたへかねて（早・国・石・大・個）

㉙夜ふくるもしらてあそひ居漸々明かたにまとろみてけり―此ことはにつきてやかてひたととりつきてふしにけりいよ〳〵ちか

まさりかきりなし（早・国・石・個）、此こと葉につきてふしにけり（大）

第四段

①扨そうつは―ナシ（早※・国・石・大・個）
①御手水―ナシ（早※）
②暫―やかて（国・石・大・個）―ナシ（早※）
③すゑけれは―たりけれは（国・石・大）―ナシ（早※）
④見て―ナシ（早※・国・石・大・個）
④ほうしの身なれは―ふしきの身なれとも（国・石・大・個）、ナシ（早※）
⑤くふ事―くふ事は（国・石・大・個）―ナシ（早※）
⑦何れも―いつれも〳〵（早・国・石・大・個）
⑧おもひけるは―ナシ（早・国・石・大・個）
⑨はつかしく―はつかしくて（早・国・石・大・個）
⑩食事もしか〳〵くわす―物もくはす（早・国・石・大・個）
⑩あしもともたと〳〵しく―ナシ（早・国・石・大・個）
⑪つくろいぬれは―つくろひ（早・国・石・大・個）
⑬目なれぬ事共おほく―ならはぬ事ともおほし（早・国・石・大・個）
⑬いとゝ心もはつかしや―くたひれはてゝそおほえける（早・国・石・個）、くたひれはてゝそおほへける（大）
⑭女ほうとも―女はうなと（早・国・石・大・個）
⑮あまた有―あまたありて（早・国・石・大・個）
⑮酒のみうたひ―さけのみて（早・国・石・大・個）
⑯物品々―ナシ（早・国・石・大・個）
⑰誠にともしからて―ともしからてこゝろにくし（早・国・石・個）、ともしからでこゝろにくゝ（大）
⑱かくしつし―かくしつゝ（早・国・石・大・個）

※早稲田大学図書館蔵本は
扨そうつは日たくるほとにをきぬれは御
手水たてまつり暫供御をそまいらせ
けるうを色々とゝのへすゑけれはそうつ
見てかゝるほうしの身なれはうを鳥くふ
事夢〳〵なしとゆひけれは程なく
の五行相当箇所すべて欠落。

第五段

①所―ほと（早・国・石・大・個）
②あそひ―ナシ（早・国・石・大・個）
③あたり―かた（早・国・石・大・個）
③人音あまた聞ゆる―人のあまたをとしけれは（早・国・石・大・個）
③みやりけれは―見やりたるに（早・国・石・大・個）
④しやくちやうを―しやくちやう（早・国・石・大・個）
⑤二三人―三四人（早・国・石・大・個）
⑤み―見て（早・国・石・大・個）
⑥そは成―あるしの（早・国・石・大・個）
⑥数おほく―ナシ（早・国・石・大・個）
⑦これは〳〵と斗にて―ナシ（早・国・石・大・個）

⑧そうつはきもをけし—そうつあさましくて（早・大・国）、そうつあさまして（国・石）
⑩幾とし月のころをへたるけもなき—ナシ（早・国・石・大・個）
⑪にけ影もかたちもなかりけり—はしりうせにけり（早・国・石・大・個）

第六段

①扨—ナシ（早・国・石・大・個）
①ほうせんとしてひとりそ居にける—ナシ（早・国・石・大・個）
②こは—ナシ（早・国・石・大・個）
③ねたるや—ねたりや（早・国・石・大・個）
③なと、—なと（早・国・石・大・個）
⑥琴と—ことなと、（早・国・石・大・個）
⑥馬うしのほね—むまやうしのほねなり（早・国・石・大・個）
⑦やく—てうと（早・国・石・大・個）
⑧くちたるつほ—くちつほ（早・国・石・大・個）
⑧さらのかけ—ナシ（早・国・石・大・個）
⑨されかうへ—されかうへなと（早・国・石・個）、あわひのからなと（大）
⑪手あし—あし（早・国・石・大）
⑪身もすくみて—身もすくみてめうちた、きて（早・国・石・大）
⑫あきれはて、そ—あきれてそ（早・国・石・大・個）
⑫居たりける—あたりける（石）
⑬色々—色〳〵に（早・国・石・大・個）
⑬きたる—きたり（早・国・石・大・個）
⑭ほうく—ほんく（早・国・石・大・個）
⑭はし—はしを（早・国・石・大・個）
⑯はい出—はひ出て（早・国・石・大・個）
⑰出けり—いてにけり（早・国・石・大・個）
⑰こわらんへ—こわらはへ（早・国・石・個）、こわらへ（大）
⑳か、る所に—ナシ（早・国・石・大・個）
⑳こんゑ殿ノさむらい—こんゑ殿さふらい（大）
㉑初参し—物へまいり（早・国・石・大・個）
㉑わらんへとも—わらはへともの（早・国・石・大・個）
㉑あつまり—あつまりて（早・石・大・個）
㉒物わらいしけるを—物をわらひけるほとに（早・国・石・大・個）
㉕といけれは—とひけれとも（早・国・石・大・個）
㉖事なし—事もなし（早・国・石・大）
㉖あさましきすかたをみかね—ナシ（早・国・石・大・個）
㉘紙きれはぬかせ行すぎぬ—かみきれをはぬかせにけり（国・石・大・個）、ナシ（早※）
㉙そうつは—ナシ（早※・国・石・大・個）
㉚せい—たけ（早※・国・石・大・個）
㉛きけれは—きたれは（早・国・石・大・個）
㉛わきたかく—はきたかにて（早・国・石）、はきたかにて（大）
㉞そうつはあまたのわらへともにはやしたてられなを〳〵心もと

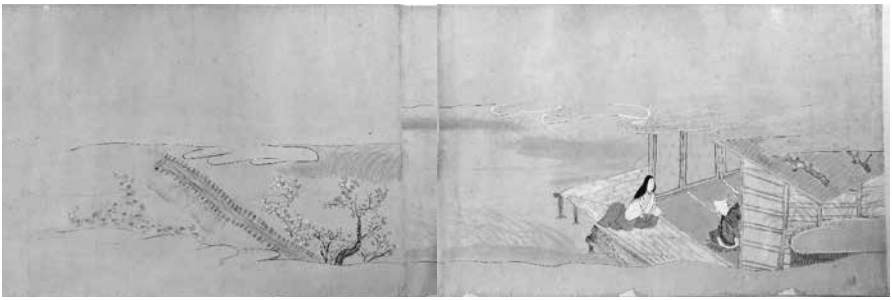
ぼ〳〵とふむあしもともみへわかす爰かしこニ行かゝりけれは
わらへはなをもよろこひ手ひやうしうちてはやしてけり漸とし
てこきやうの近所へゆき付けり―ナシ（早・国・石・大・個）
※早稲田大学図書館蔵本は
をぬきてきせ紙きれはぬかせ行すきぬそうつはこきやう
へ　帰るに此そうつきわめてせいたかかりけるにひたゝ
れの
の相当箇所すべて脱文。

第七段

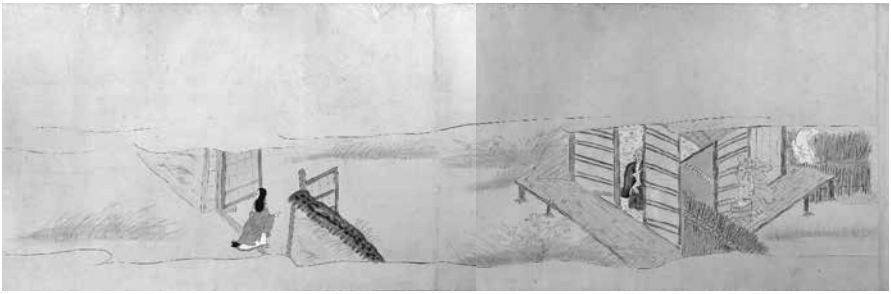
①こきやうへ―こきやうに（早・国・石・個）
①行けれは―ゆきつきぬれは（早・国・石・大・個）
③其まゝ―ナシ（早・国・石・大・個）
④ぬきて―ぬきてそ（早・国・石・大・個）
④きせにけり―きせにける（早・国・石・大・個）
⑤有様を―ありさま（早）
⑤しか〳〵のよし物かたりそしける―しか〳〵といふ（早・国・石・大・個）
⑦覚ける―おぼへけれ（早・国・石）
⑧七年の内の―七ねんかほとの（早・国・石・大・個）
⑨七日か―七日（早）
⑨うちにそ―うちにてそ（早・国・石・大・個）

四　図版（絵）

〈第一図〉

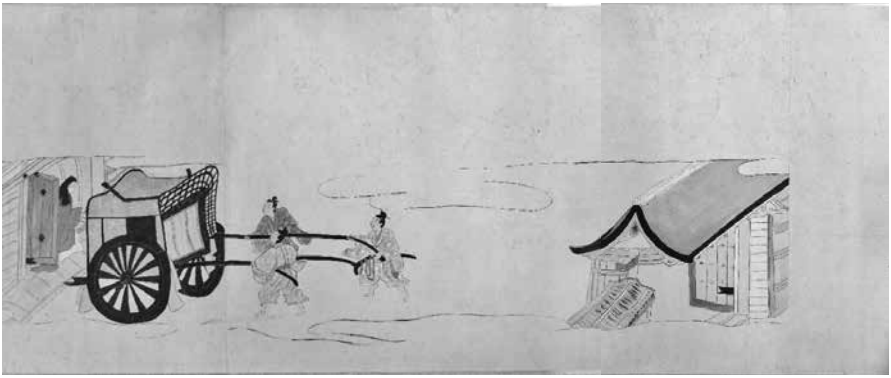


〈第二図〉

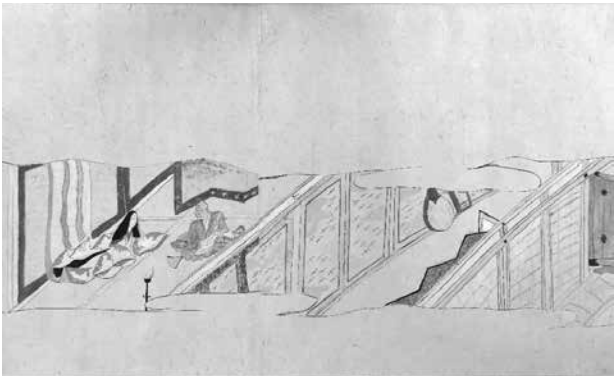


〈第二図（つづき）〉

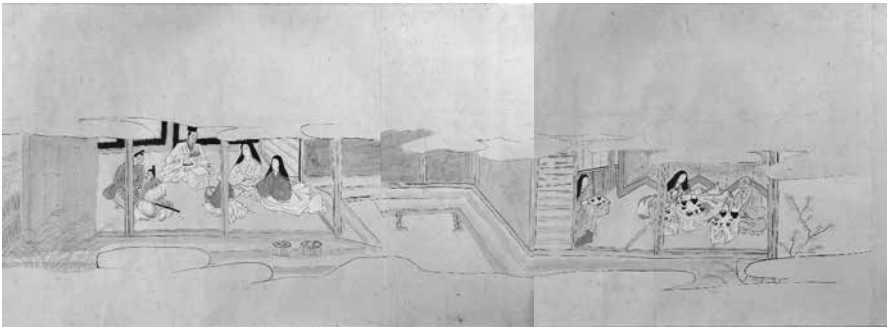
〈第三図〉



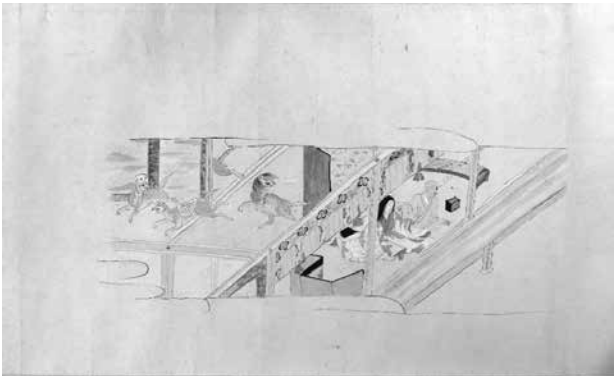
〈第三図（つづき）〉



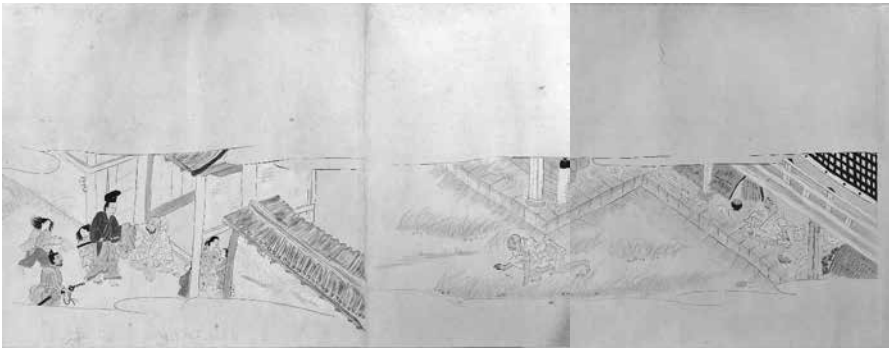
〈第四図〉

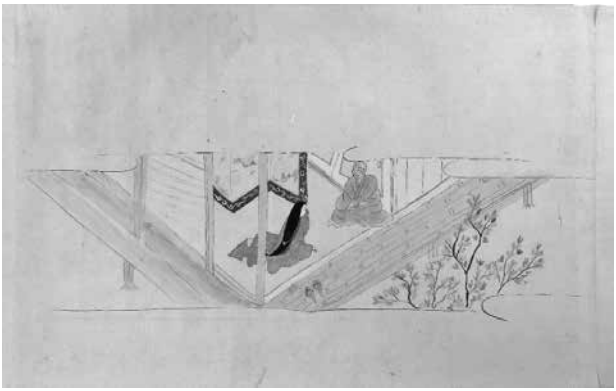


〈第五図〉



〈第六図（後半）〉



〈第六図（後半）〉

〈第七図〉